

## 26 . ミンダナオの神秘的な像 ( ミンダナオ )

大昔のこと、スペインの侵入者が来る前に、ミンダナオ島の遠いへんぴな所に、美しい女性の像が立っていました。この華麗で人目をひく像は、硬い石を彫ったもので、イスラムの預言者マホマの母の肖像でした。その美しい像は、彼女の石の目で、島から海岸や海の外を見つめていました。

しかし、これは普通の像ではありませんでした。それには伝説があったのです。これは、魔法の像でした。多くの老人は、古い伝説を信じていました。その像は本当に涙を流すことができ、そして、その像が泣く時、その涙は石の目からポタポタ石の頬に落ちて、それが地面を打つ前に、奇跡的に、美しく高価な真珠にかわる、と言うのです。

しかし、像は、その秘密の聖なる名前を呼んだ時だけ、泣くのです。しかし、この聖なる名前は、この像の信者たち、ほんのわずかの人が知りませんでした。そして、このすべての信者たちは、もう昔に死んで、今ではだれも、像を泣かせる秘密の名前を知りません。その信者たちは、彼らの秘密と一緒に墓へ持って行ってしまったのです。

しかし、この不思議な像の神話は、遠く、広く、長い年月広まりました。多くの人々が、多くの地から旅をして、像の足元にひざまずき、像が彼らのために涙を流すように、そして、金持ちになれるように、言葉を発しました。しかし、たとえどんなに大勢の財産目当ての人が来ても、そして、たとえ多くの時間、秘密の聖なる名前を唱えても、一度も、その像は、泣きませんでした。

ある勇敢なイロカノ兵が、多くの日数旅をして、像にたどり着きました。彼は像の足元にひざまずき、そして、彼の残りの能力と全幅の自信を持って、言葉を発しました。「カタルンガンこそが、その言葉だ。」しかし、美しい像の石の目からは、涙は出ませんでした。それは、ぼんやりと海の向こうを眺め続けていました。「カタルンガン」の意味は、「正義」です。そして、兵士は、これが聖なる言葉ではなかったため、失望してしまいました。

フィリピンの神話と伝説 26 . ミンダナオの神秘的な像

ピサヤからも男が来ました。像から幸福がもらえることを、そして像が涙を流すように、切望していました。彼は言葉をつぶやきました。「私は、秘密の言葉は、ダンガルだと思う。」しかし、また像の石の顔からの答えはありませんでした。「ダンカル」は、「名誉」という意味で、そして、そのピサヤ人は、これが聖なる言葉ではないことに失望しました。

そして、何年もの間、人々はその有名な像を訪ねることを続けました。それぞれ自信家が、自分こそは、その美しい像が真珠の涙を流す、聖なる言葉を知っていると思って・・・。

「カリクタン」と、ある作家は美しい像に向かって言いました。「カリクタン」の意味は、「美」。しかし、これらの言葉では、像の顔から答えを出させることはできませんでした。

「カトトハナン」とある愛国者が美しい像に言いました。「カトトハナン」の意味は、「真実」。しかし、これらの言葉では、像の石の顔からは、答えがありませんでした。

「カラヤーン」と、詩人が美しい像に言いました。「カラヤーン」の意味は、「自由」。しかし、これらの言葉で、像の石の顔からは、答えがありませんでした。

「カルルワ」とある若者が美しい像に言いました。「カルルワ」の意味は、「魂」。しかし、これらの言葉では、像の石の顔から、反応を得られませんでした。

どんなに多くの言葉が、多くの人々から発せられても、その美しい石の像は、一滴の涙も決して流しませんでした。

ある日、四人の美しい少女が、楽器を持って、像の所に着きました。彼女たちは、はるばるルソン島のバタンガスから旅をして来ました。彼女たちは、像が真珠の涙を流す言葉に確信を持っていて、言葉を話さず、それは音楽の音だと思っていました。そして、彼女らは、その島の人たちが聴く、最も美しい音楽を演奏しました。夜明けから夕暮れまで、彼女らの腕と心臓が、疲れてしまうまで弾きました。しかし、この音楽、それは美し

いのですが、像の石の顔からは、反応はありませんでした。

ある日、貧しい、しかし、親切な母と幼い娘イザベラが、有名な像を訪ねて来ました。母は、像が泣くようにできる確かな希望は持っていませんでした。しかし、それにもかかわらず、彼女は発する言葉のリストを用意していました。そして、ともかく、たとえ真珠の涙を像が流すことがなくても、その有名な像の存在に会えたことで幸せでした。その像の不思議な美しさは、彼女が予想していたものをしのいでいたからです。

母が石像に言葉のリストを読むのに忙しい間、彼女は、いたずら好きの娘イザベラが近くの海岸へ浜から貝を集めに行ったのに気が付きませんでした。何時間かして、イザベラは、まだ像への呼びかけの言葉を読んでいる母から、遠く離れていることを思い巡らしていました。

彼女の長い言葉のリストは読まれ、石の像からの答えはありませんでした。母は、もうおしまいにしよう、と決心し、娘を迎えに行き、家へ向かおうとしていました。しかし、娘は消えて、心配した母は、どこにも娘を見つけられませんでした。彼女は大きな声で、娘の名を呼びました。「イザベラ、イザベラ。」しかし、失意の声には、答えがありませんでした。

母は取り乱して、走り回りました。必死になって、幼い、いたずら好きの娘の姿を探して、そして、できるだけ高い声で、娘を呼びました。しかし、娘は視界から消えました。

その間に、若いイザベラは、浜からかわいい貝を楽しそうに集めていたので、彼女の母が半狂乱で走り回って、見失った娘を探しているのに気が付きませんでした。

暗くなって、イザベラは、像の所の母のもとへ帰った方がいいと気がきました。しかし、ついに像のところに着いた時、愛する母は見つかりませんでした。彼女は、恐れ始めました。彼女の母は、故意に彼女を捨てたのだと。彼女は大きな像の足元に立ち、暗い、そして今にも崩れそうな空を見上げました。彼女はたいへん驚き、とても孤独でフィリピンの神話と伝説 26 . ミンダナオの神秘的な像

した。

恐ろしくなったイザベラは、泣き始め、母にはもう会えないのではないかと恐れしました。「イナ、ナサーン、カ」彼女は泣きじゃくりました。「イナ、イナ。」彼女が、「イナ」(「お母さん」という意味)の言葉を言うやいなや、奇跡が起きました。涙が、マホマの母の像の石の目から流れ始めました。これらの涙は、像の頬にポタポタ落ちて、地面をたたく前に、美しい真珠にかわりました。イザベラは、母がいなくなったことに心を奪われて、彼女が奇跡を起こしたことに気が付きませんでした。

すると、泣きじゃくったイザベラは、母が彼女の方に来ているのを見て、急いで母の腕に走りよりました。ふたりはお互い暖かく抱き合い、目には涙があふれました。母は娘が安全だったことを喜びました。ですから、彼女も高価な真珠が石像の足元にあることに気が付きませんでした。だから、とにかく、愛する母と娘の間の愛よりも高価なものがあるのでしょうか。喜んだ母は、娘の手を握りました。彼女らは像のところから出て、家へ向かいました。

次の日、この地方の人々は、かがやく真珠が石像の足元にあることに驚き、奇跡が、おびえた小さな少女が起こした、ということには気が付きませんでした。彼らはしきりに真珠を集め、それは、この地方を何年も豊かに、金持ちにしました。

美しく、不思議な像は、伝説の霧の中にずっと消えました。だれも、像の立っていた所をはっきり知りません。しかし、確かなことがひとつあります。幼い少女が、像の神聖な秘密を、墓へ持って行った、ということです。